

その人たちがより御利用者に寄り添うために、特に私、女性はすごく真面目だなと思うんですけども、また勉強がすごく好きです。なので、研修プロジェクトで1年間の研修を組んで、後はその都度、その都度必要な研修を組んでいくと、大体1年にこれぐらいになります。

「サンデー毎日」だったかな、新聞記者の方が来て、研修の多い福祉事業所は離職率が非常に少ないと言われましたが、私たちは大変離職率が低いです。

今もずっと見学者がたくさん来ると言いましたね。先日、宮崎県のほうからの見学者を受け入れたときに、どうしてぐる一ふ藤を知りましたかと言ったら、ネットで離職率が低いということで、ぐる一ふ藤が一番出てきた。2番目が東京にある株式会社というふうに言っていましたが、その人たちの研修で3か所、トップ3を回るんですと言ってうちに見えた方がいらっしゃいましたが、うちはほとんど辞める人がいません。

それは、市民事業で、自分たちの働き方を自分たちで考えて作っているからです。後で幾つかの事例を話せるかな。例えば、うちは福祉事業所で、特に子育てと親の介護をやっていますので、今も親の介護と子育ての場合は優先的にお休みをとっていい。絶えず10名ぐらいがお休みをとって、今地方にいる親御さんのところに帰って、また戻ってくるということをしています。

それから、例えば有給休暇は1日も無駄にしないように全日消化してくださいと。だけれども、有給というのは、何かあったときのために、自分のために残しておくという側面もありますので。それから、休みがたまたまとれない部署もあります、たくさんのお仕事をしていますので。そういうところは無駄にしないで、全て買い取ります。これも労基署に相談に行って……。何とか無駄にしないけれども、買い取ることは法律違反だとうちのスタッフが言ったんですね。

うちの主人が言っていました、主人の会社では、前全部買い取ってくれたのに、途中で法律が変わって買い取れなくなったと言っているからと言っている人がいました。なので、私たちはいつもパイオニアだと思って前に進んでいますので、誰かのうわさをうのみにするという事はしないんです。わかりました、じゃ、私が労基署に行って聞いてきますと。労基署に相談に行ってきました。そうしたら、そんな法律はないですよと。ただ、働いているときと同じ賃金で買い取ってはいけません。それをすると、暗にお金で買い取るから、休みをとるなよと、働く人の権利を侵す。なので、適正な価格で買い取ってくださいと言われました。その適正な価格もみんな決めて買い取っています。

●女性が働きやすい職場と子供ボランティア

というふうに、女性がすごく多い職場ですので、その女性が働きやすいように。例えば、今もう入っていますが、夏休み、うちのさっきの福祉マンションの中は子供たちの声でいっぱいです。子供は、子供ボランティアという位置づけで連れてきてもよいという決まりにしています。そのかわり、親子関係を引きずらないように、子供にはしっかりボランティアというカードを首から下げてもらいます。1日来ると1つずつスタンプ、いっぱいになるとご褒美が出るというシステムです。先日も、小学校3年生ぐらいになった子が、ああ、この子、3歳のときから来ていたなという子が、今小学校2年か3年生で、もうボランティアの指導者になっているんです。

「おトイレはこういうふうに使いなさい」とか、「飽きたら、上で塗り絵やりましょう」とかね。子供たちも、そこで小さなコミュニティーを作っているかなと。

●藤ファンド 1億円を集める

役員報酬というのは、私、理事長、あと常務理事とか、専務理事とかいますね。その報酬はプロジェクトが決めます。ということは、全部がガラス張りだということです。私たちは、いつも市民の力による市民事業という自負を持っていて、先ほど福祉マンションを作りました。このときに私たち、資産ゼロ。一銭も借金もないけれども、貯金もなかった。この費用をコミュニティーファンド、「ふじファンド」というのを立ち上げて、市民から1億円を集めました。

この時点ではファンドは合法でしたが、その先、ファンド、いろいろな悪いことをする人が出るので、市民はほとんど作れなくなりました。今は擬似私募債、全くシステムは同じです、名前が変わっただけ。でも、きっと制度ってそんなものですね。「ふじファンド」を、当初9,950万円にしたのは、1億円未満を50人未満で集めると、このファンドは届け出義務がなかったんです、匿名組合方式という。それで、立ち上げました。これも、「花どけい」で市民の皆さんに1,500部ぐらい地域に配っているんですが、それで出ただけで、2か月間で9,950万円が集まりました。

1回これをやめて、お金を皆さんにお返しして、今度は擬似私募債、先着順ですと言ったら、わずか3日間で1億円が集まりました。私たちは銀行からもお金を借りてはいますが、私は、やはり市民がお金を出してくれる、ここがとても大事だと。私たちを応援してくれる、またはステークホルダーとして監視もしてくれる、そう思って、この制度はすごくいい制度だなと思っています。

市民の協力による組織運営

- ◆ コミュニティファンド「ふじファンド」(2005.12～2013.3)
 - 匿名組合方式で資金を「ぐるーぷ藤」に貸付、利息を出資者に配分
 - 2ヵ月で9,950万円の資金が集まる
- ◆ 擬似私募債「ぐるーぷ藤・藤が岡」(2013.4～)
 - 3日間で1億を超える資金が集まる

調達金額： 9,950万円
 個人事業
 100万円から500万円程度まで
 利率： 年利1.5%

- ✓ あらかじめ世帯された事業に地域住民が投資する ⇒ 明確なミッションが必要
- ✓ 少数の高額出資者に頼るのではなく、多くの市民の支えが求められる ⇒ リスクマネジメント

●NPO地域生活支援センター

こういう福祉マンションを建てました。1階にレストランがあります。それから幼児園があります。それから今は看護小規模多機能型居宅介護といいまして、日本の介護保険制度の中でたくさんの管がついている人も預かれる、最も重度の人の施設があります。それで、相談窓口、ここを私たちはNPO版地域包括支援センターと呼んでおります。例えば、今地域包括に行くと何でも相談に乗ってくれますよというのが、日本中津々浦々でき上がっています。

福祉マンション「ぐるーぷ藤一番館・藤が岡」

- ◆ 福祉マンション「ぐるーぷ藤一番館・藤が岡」の設立 (2007年10月)

- ① 住み慣れた地域で最後まで自分らしく生きたいというニーズに対応
- ② 高齢者、障がい者、子どもが一つ屋根の下ですっきり暮らす
- ③ 継続性の確保及び福祉の心を持った人材の確保と心の拠り所として拠点の必要性

NPO

福祉マンション

NPO

福祉マンション

福祉マンション

福祉マンション

NPO

福祉マンション

福祉マンション

福祉マンション

福祉マンション

NPO

福祉マンション

福祉マンション

福祉マンション

福祉マンション

藤沢でも今14か所あるんですが、ほとんどが社福です。医療法人が1か所。私たちが実は手を挙げようかなと思ったんですね。でも、ここの制度を聞いたら、土日やっていない、夜も電話を受け付けない。それでは、市民の安全は守れない。私たちは福祉マンションを作ってから、24時間、電話も公開していますし、365日相談を受け付けているので、私たちが一歩も二歩も先を行っているので、わざわざ国の指定を受けて後戻りするような制度には乗りたくないということで、あえて市民版の窓口を持っています。

2階にこの看護小多機の泊まり……。ごめんなさい、複合型というのは、この間の3月までの表現です。これ、看護小多機です。このショートステイがあります。それから、訪問看護ステーションと、障害者のグループホームと、高齢者住宅、ここでみんなで助け合って、私たちが活動をしているところです。これがその絵です。さっき言いました、ここに出っ張っている、ここがコミュニティーレストラン。外にはわんちゃんも一緒に食べられるテラスもあります。近所のお母さんたちが中で様々なこともします。

お食事しているのはこんな風景です。それから、これが1階の看護小多機で、先ほど「しがらきの湯」という題名がついていたと思いますが、その由来は、信楽焼の湯船を特注して高齢者のおもてなしにしようと思って、これ信楽焼の湯船です。ちょっと信楽焼のタヌキが見えて坪庭で、南側にこれは面しています。幼稚園の子供たちとみんな、中学生の職場訪問で毎年中学生とか、様々な看護学生とかを様々なボランティアを受け入れています。この方は器官切開をしていて声が出ないんです。でも、子供たちは何の違和感もなく、こういうふうと一緒に交流をしたりしています。

これが2階の看護小多機の泊まり、ショートステイですね。看護師がいたり、これが障害者のグループホーム。これはみんな許可をもらって写真を撮っています。これが有料ホームです、私たちがここで一番しっかりと収益を上げようと思ってつくった。しかも、理想を追求しています。将来私がここに入ろうと思って建てていますので、すごく広く見えていますけれども、こんなに広くはないです。これ、プロのカメラマンが取材にいっぱい来て、すごくきれいに撮れた写真をいただいたので、プロのカメラマンが撮ったんですが、真ん中にリビングがあって、こういうふうにお部屋は1部屋12畳です。お部屋の中をちょっと見せてくださいと、こういうふうにお住まいの方もいます。様々なサービス。これ、モデルルームだったときの。今は空いたお部屋がないので、お写真がなかなか撮れないでいます。

ここはみんなで、夜はコミュニティーをつくっていただくということで、夕食は必ず管理栄養士が立てた食事を食べてくださいという決まりがあります。

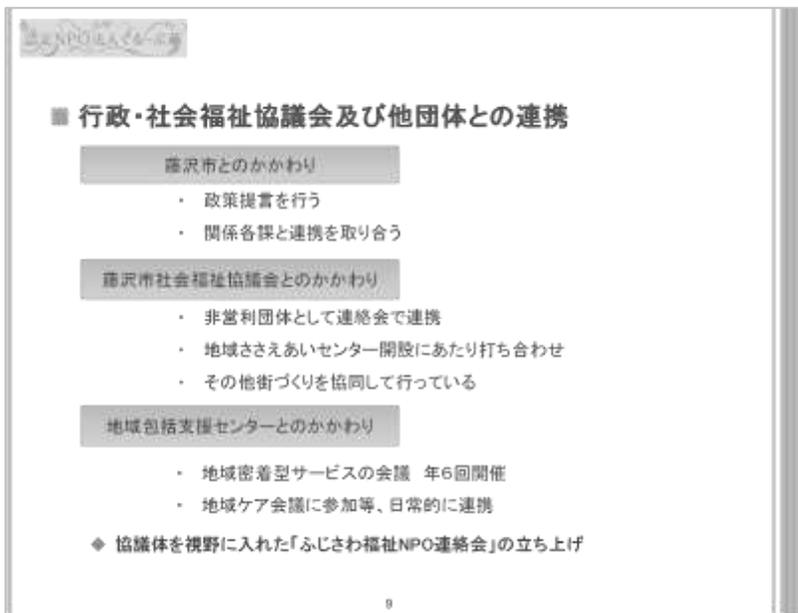




● 藤沢市との協調

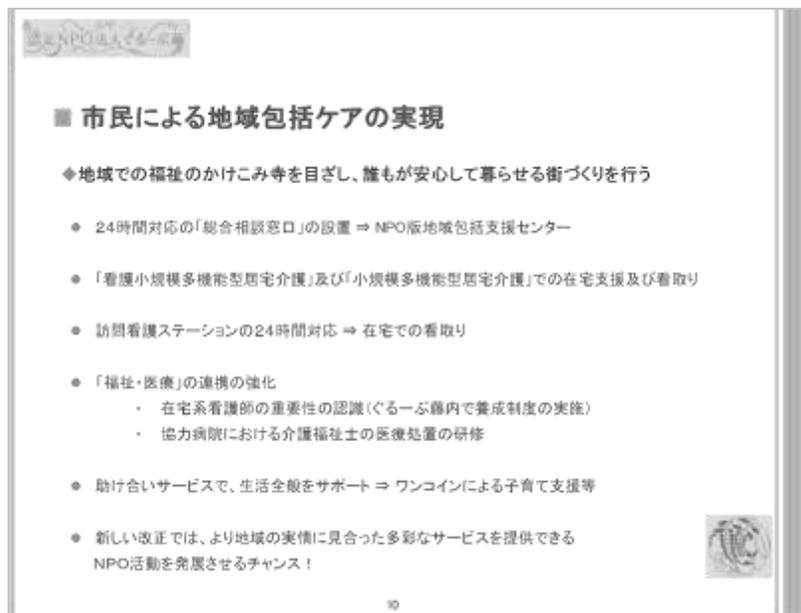
これは、私たちはどういう活動をふだんしているか。NPO活動だから、市民がやっているからといって、いつもいつも行政を批判する活動はしていません。行政へずっと24年間一貫して政策提言、ちょっと格好つけて言っていますが、こういうことを一緒にやりませんかということを、毎年行政と定期的に——行政が呼んでくれるんじゃないんですよ。私たちから、ちょっとお話を聞いてくださいと言って、話しています。藤沢市とのかかわりというのは、いつも、いつも市民と行政は対等である。どちらが上でも、どちらが下でもない。互いに助け合っていきましょうということで、24年間歩調を合わせてきました。

社会福祉協議会とは非営利団体として連絡会を作ったり、後でお話しします地域ささえあいセンターをつくるときには大変綿密な打ち合わせをして、社協はたくさんの居場所を作っていますので、私たちが作る所と、例えば働くお金があまり違っても、市民にとって混乱を招くんじゃないかということを話し合いながら、まちづくり、協働して行っています。



● 地域包括ケアの実現

地域包括センター、さっき言いました、私たちはNPO版、こちらは行政の依頼のところとは、地域密着の会議を頻繁に、地域ケア会議に参加したりしながら今進めています。ここに協議体を視野に入れたふじさわ福祉NPO連絡会の立ち上げというのは、昨年私が市内のNPOに呼びかけまして、この4月から介護保険法が改正になって、皆様御存じのように要支援1と2の人が地域に戻されますね。そのときに、受け皿になるのはまさに私たちだろうと。こここそNPOの出番だろうということで、連絡会を立ち上げて、今そこには社協も、それから藤沢市も是非参加させてくださいと、毎回市も参加しています。



私たちは、先ほど樋口先生のお話の中にも、地域包括ケアというお話が出ました。私たち、これからの日本はみんなで協力し合わなければ、この超高齢社会は乗り切れないんですね。その中で、じゃ、地域包括ケアとは何なのといったら、厚労省の説明によりますと、住んでいるおうちを中心にして、30分以内ではほぼ全てのサービスが行き渡るまちづくり、世の中にしていこうと言っています。その中心になるのが、私たちNPOだろうと自分たちで自負しています。

私たちは、先ほど樋口先生のお話の中にも、地域包括ケアというお話が出ました。私たち、これからの日本はみんなで協力し合わなければ、この超高齢社会は乗り切れないんですね。その中で、じゃ、地域包括ケアとは何なのといったら、厚労省の説明によりますと、住んでいるおうちを中心にして、30分以内でほぼ全てのサービスが行き渡るまちづくり、世の中にしていこうと言っています。その中心になるのが、私たちNPOだろうと自分たちで自負しています。

●福祉と医療の両輪

私たちは、先ほど言いましたように、24時間体制の総合相談窓口を持っています。これで夜中の電話も対応しています。これはまさに市民の安心を守るための活動です。

それから、先ほどありました看護小多機、そこで最後まで看取りができる体制を整えました。福祉と医療の連携、これを大変強化しています。というのは、福祉と医療がなかったら、人の最後は看取れないんですね。医療だけではQOLが保てない。福祉だけでは、死亡診断書がないと埋葬できない。とにかくここがとても大事なんですけれども、実は口で言うほど簡単ではないんです。非常に医療の壁が厚いです。

●人材養成制度

私たちは、ここのところで、ぐるーぷ藤の中で養成制度をつくりまして、人材育成こそお金をかけています。准看1人と正看1人を養成しました。この正看護師、3年間全部の、もちろん奨学金はうちで出ただけではなくて、トップリーダーでしたので、トップリーダーの給料を保障して、ボーナスも出して、3年間で千数百万円を投資しました。この3月、途中社会人入学で一番年長者だったそうですが、卒業のときは総代になって卒業して、今立派にもう一人前の看護師として働いていますが、そういう強化を進めています。

例えば、ちょっと前まではたんの吸引というのは看護師さんしかできなかったんです。でも、看護師さんだけではできないんです。福祉職がやらなきゃいけない。そういう喀痰研修も、非常に私たちを支援してくださる病院で全部させていただいて養成しました。

●地域ささえあいセンター ヨロシクまるだい

介護保険改正は、今こそNPOのチャンスだという位置づけです。これが「地域ささえあいセンターヨロシクまるだい」、介護保険改正が決まったときに、すぐに藤沢市に提言に行きました。市も、うわっ、すごいね、これはということで、市のモデル事業に指定されました。今ここが全国から見学が相次いでいるところです。ここは、子供たちも、子育て中のママも、障害者も、みんなで寄れる。先ほどの説明の中に、澤登さんのレジュメの中に、最後いろいろなことができるというのがありましたね。真ん中にレストラン、食堂というのがありましたね。この、厚労省が言っているのは、生活支援コーディネーターを置きなさいと。

